

△二人筆とつて御願

さあ〜 一點筆をうつて一字もぬけんよふ、ゆつくりさとす、ゆつくり筆にとりてくれ、また聞くものもゆつくり聞くがよい、中にこれがとわからにや尋ねかやすくらいことばかやしたらどんなものでも心におさまらにやならん、これまで古きものうもれてあるき、わけてやらにやならんとさとしてある、りはうもれきつてある、事情それから日々の處からだん〜ひきだしたる、第一ひきだしよふがないからさとしたる、たれ一人名ぎしてたれともゆるばはやくだしよい、よふき、わけ、年あそふゆふやろふ〜か、こふやろふかどれやろふか、これやろふか、みんなそふ〜のりによつて尋ねたりある、ならん中つとめたこふのふとゆふは、是迄かきしるしてない、たゞことば一

つよりたちきたつたもの、きいたものあれば聞かんものもある、よふき、わけ、いつ〜のばんいつ〜の刻限にさとしある、男女ゆはん、本部員どふか〜とさとしたりしやんしてみよ、しやんすればわかるやろ、こらどふゆふもの、たれのしつさく、しつさくみにあらはれば尋ねにやならん、日てるがりであらう、よう聞分けどふかくとゆふ、たゞおなじどふかくやろ、是ちがうかちがはんかちがはにやおなじ事がどふかくやろ、こちら五寸あちらも五寸とゆふはどふかく、あちらが三寸こちらが五寸とゆへばどふかくとゆるるか、一つのりがちがうかちがはんか、こらならんやならんと此こたへ一つしてみがよい。

△押して會議にもで、もらう事でありますか

さあ〜尋ねにやなるふまい〜、りをきいたら分るみな本部員〜一つりをもつてゐる處、あちらか、りあいこちらか、りあい女とゆふはでる事しにくい〜、内々聞分けてくれ、どふゆふてか、り、かしこにこふゆふてか、りあるとゆふも同じ事、また一つ會議とゆふはりによつてなんでもかでも出にやならん事もある、なれどでよふとゆふた處が一寸よふがあるるとゆふはたれでもでる事でけん、そのま、みなをしたらおなじ事、是さとしてこれよくき、わけ、き、まちがいあつてはならん、これまで順序にしてはじれないにやならん、またじれいのふてもそふと治まつたるなれど、りにしてなげにやならん、みなどんな會議にもでにやならん、なれどでこしたものでよとゆふた處

がでる事はでけん、今日はこふ〜手ははなせん、手ははなせんとゆふ日はでる事でけん、あちらこちらへで、か、りあるものをなじ事、これわからんかわからにやみなほときあるによつて。

△明治三十二年九月十九日北分教會整理に付高井、

喜多兩氏出張仰せ下されしに付神様へ御許し願

さあ〜尋る事情〜、一つ理をもつてでこす處、何が順序ほどのふ〜り、どふもうつとしてならん〜、一時すみやかはれた日につとめさそふとおもふは一度でなるまい、治まるとゆふはた〜一つより治まらんでこす處ゆるしおこふ治めてこい〜。

△押して一つより治まらんと仰せ下さるは御道のり

一つとは心得居りますなれど一寸御願申上げます

さあ〜順序のりをさとしたる、りは一つりにりがあつてりさかへ、あちらの事やこちらの事や一人よりだし二人よりだしどふもならんいきとてもいからせん、順序道ちがうから道はづさにやならん、これ心にもつて治め方とゆふ。

△明治三十二年九月二十二日梅谷おたね五十才身上

の御願に付

さあ〜尋る事情〜、さあ何か事情どふゆふ事情、さあ〜まあところをかへて心を治めた一つ事情、又はみな同じ事あるなれど、あちらへ心にかゝりてならん、さあ心にかゝらんよふするがよい、又一名何よの事もそばにすればどふたにはなれ

ばどふもならん、そこであちらにさわるこちらにさわる、治りたら一つでよいもの、まだあちらへこちらへ心にかゝりてならん〜、又一名には年限たつたものもある、これは心にかゝる、心にかゝらんよふ治まりたる〜、心たゞ一つでよいまだどふやるこふやるおもてはならん、心にかゝる事は一つもなきよふ心にかゝりてはならん。

△とみゑ引越の事

さあ〜心にかゝらんよふするがよい、心にかゝりてならん。

△老母も寄せます事で有りますか

さあ〜老人々々、これも〜聞分け、何もよふむきはなどおもふやない、親あつて子〜、しやんせへけつこふおもへ、こふおもへど心にかゝればどふもならん、りのわづらはんよふせ

にやならん。

△お春も寄せ升事御願

さあ〜心が分らん、よふ〜どちらもりは同じ事、同じ一つ
のあじもつている、心にかゝるはどもならん、又身上から尋ね
た尋ねてさしづからもつてすれば、どんな事もさとすこれしい
かりきゝわけ。

△明治三十二年九月二十九日御本席様御身上御願

さあ〜さあ尋る〜、いかなるも尋る、もふこれ尋るか
らいさゝかなさしづする、長いさしづかづ〜してもわから
ん、あるともないともない、ちがふさしづはせん、道の爲にな
らんさしづは一つもしてない、みなそれぞれ人間よつてさしづ
すれば、神のさしづはいらん、兄弟の中同じ兄弟一つなら同じ

理、勤めにくいとゆふ一日二日の間とゆふはよほど順序理をか
さねたり、いくゑのり十のものならまあ〜よふ七つといへば
そこへ〜あちらこちら三つよりもちいりてない、あと七つの
りはどふするか、どこへ尋る、この順序よく一日二日はどふし
てなりと日はおくれるもの、三日四日たつ中に順序りをはこ
べ、中に十日二十日三十日たち、一席二席と道理なんとおもふ
はこび順序りとおもふか、取次あちらこちら身のさはり、十の
もの七分まで運んでいるよふにおもふいるなれど、三つ治まり
ないなれどあるなきゆはん、さとしりとゆふなりかけたり人間
心日々かつて〜りなら、なんにもさしづいらんもの、事情願
日々席順序どふとつているか、席の身の内どふゆふりとつてい
る、十年三年あとのりをのこしおきたる席であるで〜、

ことがまちがへばまちがふ、今日からあらため、これもまちがふ、こふゆふりこしらへた、めんくよりよふて一日の日をもつて願ふ席の順序き、わけ、席があるないものがあるよふてやすむ席ぢやないで、よるのよるまで席をつとめさしてある、とふく處からなんのためにとふくあゆんでくるか、日々別席く中に取次何名何人ある、今日あすとゆふものりにりがあるか、ほんにこれまで順序今日の日はどふぢや、三日五日どふなりとおくれるもの、十日二十日たつたらせかへなんと聞えるか。

さあく、一つ理を聞分け、長いみぢかい高いひくいとこれのりがある、高い處は高い、低いものはひくい、これ高いものあちら二日三日神のさしづけているよふな、これもよふき、わけてくれ。

△明治三十二年十月一日永尾檜次郎朝八時頃より腹

痛に付御願

さあく、尋る事情く、一時事情尋る事情尋ねにやらんく、なんでもかでも尋ねにやらん、何がたてやうとも分らん、日になつたる、身の處から尋ねばどふでもこふでも尋ねにやなるまい、是迄十分尋る事でけん又刻限さとする事でないいかな事情もよく筆にとつてくれ、如何な事情今にゆふでない、ぜんく十分さとしてく理がつまりたる、そら水の上やで、しもてからはどふもならんとさとしたる、こゑのとゞく迄はよい、なんぼどやいた處がとゞかんよふになつたらどふもならん、みよとゆふた處が目に見えんよふになつたらどふもなら

ん、これよふき、わけて、皆おさめてくれ、今一時尋る處こふ
 さいて分る、おまへこふきいた、おらこふきいた、こらこふや
 そらどふや、皆咄しのだいにさすとす、よふき、わけ、道すぢと
 ゆふは大ていな道でない、ほそい、道とふりた、これであん
 しんとゆふどふである、これからはなしする、ゆつくり筆にと
 りてくれ、今日の日、せまり、せほりきつたる、一つほど
 きとゆふほどききつてしまはにやならん、ほどく口わすれて年
 限たつたらどこからむすんだやら、どこからほどくのやら、ほ
 どくに口わからん、是迄一日も氣のやすまつた日あるか、教祖
 存命よりおくりた、今日の日よふき、わけ、こふもせにやなら
 ん、どふもせにやならん、日々の處それはもつて一つよせたり
 である、あちらこちらどふゆふ事、それもどふもならん、ほこ

り、おふぼこり、中に何人あれど一つの理なら何もゆふ事は
 ない、此道一つそふぞふ年限の中、年限あれど理のむすばれほ
 どく事でけん、人間心よりほどく道はない、人間心よりないと
 ゆへば神の理どこにあるか、この理き、わけ、あちらでもこち
 らでもならんじやなあ、年限の今日の日もろとも、つれてと
 ぶり、なんぎくろふの道とふり、さき、あんじるなあ、ゆい
 く、くらし理は三十日や五十日やない、是日々いりこんでさし
 づする、これは世界日のあたりたよふなもの、よふき、わけ、
 日のあたらそふあたらそふまいとみなの心にある、よふき、わ
 け、今日一日さしづどふなるふこふなるふ、よるになるか、ひ
 るになるか、くらがりになるかよふき、わけ、しばらくくさる
 なわむすんだどふりよふき、わけ、あちらこちら棟三げ

んたて、道すぢどふなるやこふなるやわからんほどに、一寸でけた中によるこぶたのしみないく、このりほどき、三名中一名くかない、何人あるかかないくき、わけ、四方へ水ながれる、よふくなんでもかでもうちよふてすつきりそふじ、このそふじせかいなみよりおとりた事つのりたる理がありてほどけんく、一寸そふぞふりであるよふき、わけ、親一つからはじめ、それく理同じ事、一軒も同じ、この順序運んでくる、そだてはそだつ、きれいにすればきれいになる、そらどふしたらいかん、こふしたらいかんよふき、わけ、しまいにいかんよふになる、たがいくれいゆふよふになりてみよ、ふそくあるたんせへする、不足ありてたんせへとゆへるか、日々たんせへとゆふりになつてくれ、日々みなれいゆはにやならん、これだけ

さとすさとせば台である、よふき、わけ、たゞ一がいのそふぞふでくどふりかなはん、かなはんからにいちもさあちもいのけんりせまりてくるこれき、わけ。

△押して三人の事だけで有りますか、此外に理のか

かりたる事も有りますかと御願

さあく分らん處尋ねかやせくばさとす三人とゆふてある、又一人又一人五名となつてあるく、いんねんき、わけ、道からいんねん、一つしんじつからいんねん、何からでもどふりからいんねん、はいつたさかいにはいらんさかいにゆふてはならん、理に理そふたら一つこのりあざやか分りたら分る、此の理分らんからどふりくほどけんよふになりたる、この理聞分けばあざやか分るよふき、わけく。

さあ〜よふき、わけ、木をうゑてある、あちらよいなあこち
らよいなあ、おなじ花さけば元は一つや、元そふたらおなじよ
ふ花さくとゆふりき、わけばどのりからどんなりも治まる、こ
れ一つよふき、わけ。

△明治三十二年十月二日永尾櫓次郎身上一段治まら

ん故御願

さあ〜だん〜尋る事情〜、尋る事情はよぎなくである
〜、まあ内々はゆふまでもなく尋ねにやならん、事情又これ
まで〜だん〜いくゑ〜事情さとしたる、まあこれなんでも
かでもはやく〜とゆふていそいだ處がおくれるが事情、お
くれてさしづまりたらどふもならん、事情これまで萬事か、り
て事情、どふゆふ事情か、りてある、是迄みればさいたる花の

よふなもの、世上へうつれどながいあいだ、今日とゆふ日にな
い、どふもわすれるにわすれられん〜、どふでもせまりきり
もふならん日がつんで來たる、そこでどんと身上にかかりた
る、よふき、わけにやならん、さしづとゆふさしづは聞きよ取
りよでころりとちがう、内々まで治まればまたとゆふりをさま
る、是迄どふもならん、みるよりしんのいたみとゆふ、どふも
ならんで、今日の尋ねかやす處、ぜん〜さしづこもありある、
もふ事情のぼりきりてどふしてもならん、もふむすぼれ〜、
一寸ほどけん、一寸もどけん、どふなるこふなるわゆふまで、
どふでもたがいたが心もつてやれ〜、心もつてやぶんつ
とめでる、又あさもつとめにでる、このつとめはいつ〜と
ゆふ、このりわすれにやいつ〜までのり、又たにみてもそふ

であるなあ、どふもなあ、これかゞみのだいとゆふ、さしづは
あともさきも又なかほどもある、元もある中程もあるしまいも
ある、からけない事さとしてないゆふてない、これまでとりよ
聞きよでまちがう、みなかじとゆふかじのとりよふでどんな大
船でもいのける、西へいことゆふのに東へゆけまい、又南へゆ
ことゆふのに北へかじをとれよふまい、かじが第一、そこであ
ちらきがね、こちらきがね、きがねして神のさしづそのま、人
間心のり、この心あ、さしづゆふにもゆはれん、人間におそれ
ばいけた花とゆふ、つゞいた花とゆふはもちにくい、いけ花一
寸よはいもの根があれば根から芽がでる、又ふしからめがで
る、人の事やない、みなわが事に治めて、みんなのはたらきに
ある、どふなつてもこふなつても、一つけつこふ、中にくもり

にごりある、あちらとこちらとわけわからん、このりき、にく
てきかせん、みせるにみせられん、だんくみづくそなる、み
な五本のゆびのごとくにならにやならん、それはいつでもこた
へるく、これをさとすにき、ちがいないよふく、早くく
一時どふとはない、なれど身上せまりきつたる、一時定め處み
なはらのたつ處、さんげはらのたつところ、たてんよふさん
げ、よき事をもはんからはらがたつ、皆さんげとゆふ、これは
うまれ子とゆふ、それあとく早く順序く。

△押してみんな誠の心定め升から御助け下されたい

と御願

さあく内々の順序、身のさんげ心のさんげ理のさんげどふで
もこふでもせにやならん、さんげなつたさかいにどふせんから

どふとゆふ事はない、しらん間ならよい、屋敷中からどふでもこふでもくさんげく、又一つ取次一條く、これまであちらきいてもこちらきいてもあたる事もあたらん事もある、そふぞふきいてどふもならん、一寸きけばあちらたてばこちらた、ん、こちらたてばあちらた、ん、せつかくはこんだ處がむだとゆふ、ほんしんはこべばたいよふおさまる、これが第一であるく、よふき、わけてくれ。

△明治三十二年十月三日永尾檜次郎身上に付よしる

まさへ、政甚三名よりさんげ申上御願

さあくまあだんく一度二度三度、どのどふりより一つのり、まあくよりよふての中く、をふく中よりよふて中、まあ内々事情く、だんく事情かさなりく、どふも身上のと

ころ一時どふでないなれど、十分事情むつかしいものである、身の兄弟三名よくき、わけ、あめが一時にあるかないか、しやんしてみよ、こんな道はないほどに、人間とくのやくそくやない、天よりさづけ、一日の日をもつておさまつた日がある、これほんのかすかだけはあちやおもはせん、一つあらためてき、わけ、何程のりでも何程のもでも、これだけどふして、こふしてとゆふた處がないほどに、しんの心おさまらん、そこでいたむ心よりない、よく三名心を合せ、一時あらためて道のため、順序たしかながれんよふ、これからたしかあらためるなら、どんな道もつれて通る、いかんくは一日の日の心のりによつてなるもの、たとへどふなつてもこふなつても道のりけやせん、ふじゆふなんぎさ、ん、これまでそら吹く風にふかさ

れ、どふもならん、へんじよ雨風の中の船たいせん、おきへふ
 きながされたよふなもの、どちらむいてるともこちらむいてる
 とも分らん、天よりついてもとづくりあるこれき、わけ、又み
 んなもの天よりつれかへつておさまりもある、たがい／＼の
 りがあればどんな火の中水の中つるぎの中でも、今日の日おふ
 くの中つれてとふるが道である、よふき、わけて、心一つのり
 をおさめてくれ／＼よくき、わけ／＼。

△政甚よりおしてこれからみなしつかり心むすびあ

ふて行きますから御助け下されたいと御願

さあ／＼よふき、わけ、これどんな日もしつているやろ、どん
 な事もわかつてあるやろ、めん／＼心とゆふはどふもならん、
 あくにさそはれ、あくにまきこまれ、あくふきだし／＼よふと

りかへとりかへば、どこにふそくあるかどこにもあらしよふま
 い、是迄だん／＼筆をつけてある、おもて大工うらかじやとゆ
 ふりはふるい教祖よりつけてある、これわからにやどふもなら
 ん、これ心にもつたらあついさぶいわからにやならん、いつ
 ／＼迄き、わけ、むつかしい事ゆはん、かなの事をふく中おふ
 く日まつ、人の心三日ぜんやすめば、だん／＼おくれてくる、
 みなまつやろなあ、これいつ／＼心にもつてくれ、おふくの中
 ら多く中、これはこぶならけつこぶながらへての中、日々やす
 まずにはこぶなら、あから／＼てるりばかり、世上のりこれ一
 つき、わけてくれ、これしよふがい一つりにさとす、一日の日
 のさしづはこれまでなきさしづ、あちら一名こちら一名つごふ
 五名むすびこんだる、一つりき、わけばなによもき、わけでけ

る、りをき、わけばむつかしい事はないあかるいりをわけてよ
ふき、わけ、たすけたいがり又たすけにやならんがり、元のり
をき、わけはこばにやならんとゆふは、日々そふくのり、又
一人尋る處せまりたる、何もどふなあたてこふなつたて、花
もさけば實ものる、小人あればどふしたらよいとおもふやろ、
又やぶんやぶんにもおもふ、この地場にうまれるもの一つのり
き、わけてくれ、いかな順序はこのりにみなあろよくき、わ
け。

△明治三十二年十月五日御本席様朝席運びの跡續い

て刻限の御咄し

さあ〜ウ……………、だん〜筆にしつかりととれ、だん〜こ
れまで〜ウ……………、よふ〜さあさあよふ〜、さあどふゆ

ふ事をはなしかけるやら、一寸しれんで、さあだん〜これま
で〜筆にしらしてある、あれこれなんぼだしてあれども、一
ついつ〜の日どふたれの事情、どふこふやと萬事順序あらた
めて、みな一つのせいしん、よく〜事情き、とれ一日二日の
日の事情、この心みてやれ、その心よふき、わけてやれ、なん
ど〜のさしづ時々のりからおくり、これからの事情ゆきよい
ものあざやかな事情、だん〜事情いくゑなんどのさしづ、古
きさしづ事情もだしてある、教祖存命の間からはなしよふき、
わけてもいるやろ、ながい間の事情筆にとつてもある、三十六
年の間それからうらかじや、それからおもては大工、これなん
でもないよふなものとおもてはならん、これよふ〜の間、年
限の間から一時くれてしまい、日々の日は存命の間もおなじ

事、うらおもてこのりよくき、わけてくれ、今日といふ日これだけすれば十ふんとおもふやろ、世上からみれば花のさいたるよふなもの、花の中にすんで一日の日もうちらばあんしんの日はない、さきざき名稱あちらこちらたびをしたとき、こやすみするよふなもの、みなそれくつなぎよふてく、あとくの日又一日の日より理のつなぎ、一日あとの順序くもふ一度さしづ願ふてくれとゆふた日、そのさしづよふき、わけてくれ、ふせこみとゆふはどこからみてもうごかぬり、うらとゆふおもととゆふ道一つの中にくもりはないもの、かやしくのはなし、花と花との中なれば一つりさとし、これから一つき、わけ、一人はくれた又一人くれた、又あと一人ふせこんだるり、一本うゑこんだるり、月はかはれど日はかはらん、これき、わ

けばしよふとゆふ、この一つのりき、わけてくれにやならん、かげこそなけねど、どんなはたらきするやしれん、二人子供花さく、一本からため、どんな花がさくともしれん、西からはじめて東とゆふ、東はきよふたくとゆふ、とふぶんの所心やしない、氣をやしなひしぼらくの處、あちらひとばん、こちらひとばん、それからぢゆんじよふ初めかける筆にとつてくれく。

△明治三十二年十月五日夜永尾晝の御指圖に付押て

御願

さあくくく何よくだんく、何よくもふだんだんひきつゞきく、つかへてくどふもならん、何かの事がどふにもつかへきてならんだく、十分のりをさとしたい、一寸くの

理はどふもなる、もふ一つどふもならん指づまつてぜんく事情にもつれの事情、それからむすばれく、だんく事情だんくさとしたる、年限は長い年限、長い年限の中におふかたそこへくの理をはこべども、まだくおくれ、どふやらすると年を越えたる事もあるなれど、どふでもこふでも一日の日とゆふ、刻限さしづまりたらもつれでもほどかにやならん、くさりなはのむすんだくさりなは是れが口かいなあく、差圖あざやかわかりたら間違ない、差圖にはまちがいないどふでもむすばれた事情すつきりほどく、このたびはどふゆふものやらなあ、みな想像の中おふいにさはぎたつたやろふ、このふしよふき、わけ、みなくめんくそれく爲になるほどに、此道はどれだけどふしたて心だけの道、心だけの理、ゆつくり咄しする、

中に筆とりぞこないあつてはならん、いまのふうふどふゆふ事でこんな事になつたこれちよいく咄したれどどふもならん、こふゆふ事になつたとおもふやろふ、すぎたものはすぎた事情としてこれからき、わけ、みなそれくなるほど、ゆふ心があれば世界からなるほどになる、これにはちがいあるふまい、なるほど、ゆふりくらがりからうつしたらくらがりの事、あかるい處から世界へうつしたらあかるいもの、あかるい處からすればもふ一度にうつる、世界からなるほど、ゆふ、こふしてこんや皆々の揃ふた中ではなしたらみなおさまる、このみちすぢは大きな道すぢをつけかけたる、これで大くわんと思ふてはならん、おふくわん道はまだく一寸だすものだすによつて、たかい處へだんじてりをもつてのぼつてある、もふ月がかはつたら

それそれ心日にくどふであるふ、おりるおりんはどふゆふ事
 であるふとおもふ、よふいならんりどふであるふ、一寸しらす
 にやなにも分らんもの、しらべくいなあにもしらべるものあら
 せん、日がきたらたのみにこにやならんく、あちらがわるい
 こちらがわるい、それはみなみなものしらんとしている、こ
 ふゆふやどふとゆふ、もとくよりはなしの理をしらす、なん
 にももんかたない處からはじめかけた理をしらす、年限おくり
 く、いつのとこんな事ゆふばかり、順序治めたもの一寸なか
 つた、人間心でしたものははづれやすいころりとかへ世上いれ
 かへも同じ事、古い道つけかけた此の長い年限通りまあならん
 く、幾年たあつてもまだならん、どふでもこふでもつけか
 けた道はとふりぬけにやならん、一寸おふくわん道たのしみ

く、元は眞實の心く、こふゆふ道はどこにもあらせん、眞
 實の心道具をそろふてか、りかけよ、へんじよふへで、か、り
 かける、日々ろぎんきれてはどふもならん、なにもあんじる事
 はいらん、此の咄しつたへく、一寸につたへられん、だん
 くさとしかけるところみなくたのしんでくれく、一寸
 寸尋ねた事情どふゆふ事のさしづ、あらくわかりである、今
 日の日の事情さとしにちがはん、ひるのりにどふであるふとゆ
 ふところ尋ねかやせ、こんばんのさしづはいつになりてもちが
 はん、これ一つまご、ろの心おさめてくれく、にちくま
 かねるく、是れをよふき、わけてくれく。

△押して晝の御指圖場所とゆふ處御願

さあく尋ねかやさにやわからん、年限をかぞへば分る、年限

は七ヶ年の年限、その間には人一人、今一人地所とゆふ、一本の根からふせこんだるたね二人子供めがふきかけた、ふせこんだる一本の根よりめがふいてある、あらたれやかれやとくべつありては本の根とはゆへよふまい、月がかはれど日がかはらん、此順序あざやか分るやろふよふき、わけ。

△暫らくして本部員一同墓の場所の事談している内に

ちがうく、まだわからんか、もふ七ヶ年たつたる内一人あと子供二人芽をふかしてある、この順序なんぼさとしてもわからん、一本の根ならこそ月がかはれど日がかはらん。さあくなにもわからん、さきから道がつくりであるく、これをき、わけ、のぼりくだりたいそふ、これはたれがつくりたか、子供二人はこれからやで、花もさけばみものろふく一寸

青芽ふいたるあれは元のめからふいてある、これまでまちごふてあるく、月がかはれど日がかはらん、是れよふしあんしてみよ、人間心でできるかでけんか聞分けてくれ。

△おさとの處で有りますか

さあく道は造りてあるによつて、どちらへなりとも順序がでける。

△押して前か西か御願

さあく順序にづうとく、まあく今の處順序にづうとく。

△明治三十二年十月八日南海分教會長山田作治郎身

上御願

さあくだんく尋る事情、だんく尋る事情くはもふだん

くせまり、よほど順序にせまりたる處、もふ一度二度もふくいつやらしれんとゆふ處までさしたる、どふでも心やすめ、早くとゆふさしづおよんだる、その間の年限一二年とゆふやる、身のせまりからなんでもかでも心やすませとゆふりさとしたる、これだけたるとゆふたのしんだ日一時せまり、だんくそれくつくすはこぶ中へはなししてある、もふ本部員くこのたんのふわからんか、たんのふ分らんか、もふどふでもこふでも十分の理治めさしたる、まあ一日なりとくつとめたらとゆふやるふ、だんくはこんだつくした、とふく處よりいとはずつくしたり、一日將來のたのしみわたしてある、今一時尋るみなくよふき、わけてくれ、中場であつたらなあ、だんくさとしたる、又小人たるこふであつた、そらよぎなくの

中場であつたら、こふとゆふ處聞分け、同じ手をつないでとふり、これをながめて満足してくれ、ほんにあとくり、これき、わけ、道のりとゆふはしよふらいはなそふにもはなれやせん、とろとゆふてもとら、せん、そんなら道あれたけはこびくろふしたものなあとゆふ、よふき、わけ、道をはじめかけ、一つくのりしよふらいのりのだいとすれば末代のり、又それくやくく、こしらへたり末代のりに治まる、是れよふき、わけてくれるよふ。

△明治三十二年十月十二日寺田半兵衛身上御願（永

尾槽二郎葬祭の翌日より胸腹いたみ少々上げ下し

して脳いたみ左の顔しびれ左の親指しびれ候に付

御願)

さあ〜尋る事情〜、身上とゆふさあ事情もう何度〜事情
 く〜、心に一つのりはたへられんである、一度の咄し一度の
 理、さあ〜尋る〜、さあ〜さしづある處、一つの處二つ
 まだ三つにかゝる〜、たいられん事情である、さき〜どふ
 もうつたうしいなあ、日々である、ぜん〜さとしある、一つ
 りとゆふは心にあんじありてはならん、とさとしたる、いつと
 ゆふ事情ではならん、これさらにおもふな、道すがらとゆふり
 をき、わけ、道さきをおもへばながきものなれど、あとおもへ
 ばみぢかいもの、内々一つたゞ一とおもふによつてどふもなら
 ん、心に理をもつて一時治め方はこび方、りに二つない、一つ
 治まれば二つ治まる、とふりにくい事心にもつた處が治まりに
 くい、とんと心にうかばんからどふもならん、そこでもつもた

れるとゆふ心もつて順序治め、今はこふ後はこふとそらいら
 ん、こらこふとやりたりによつて治まる、たゞ一つとおもふよ
 つて治まらん、治まる處あるや、おや〜とゆふ處、道うしな
 はんで、りにあんじてくれなく、あんじてはきりがない、そ
 こでもつもたたれる理、さあ早いりからか、れ〜。

△暫らくして

さあ〜もふ一言はなししておこふ、どふであるこふである、
 こふしたらこふどふなるこふなる、あと〜おもはんよふ、小
 人たる處しいかりみとめてある、もとあるによつて、それ〜
 あざやかりはこんであざやか、りはこぶよふ〜。

△明治三十二年十月十六日午前十一時心得（西の宅
 にて御咄しあり）

根にはなれなんたらどのよふな細い處からでもどのよふにさか
ゑるとも分らん、しばらく細い道からとふり、心一つのりであ
るほどに。

日がたつてわすれるよふな事あつては、今とゆふたら今やで。
あいづたてやいとゆふ事はまへにもしらしたる、又どふゆふり
がたてやふやらしれんで。

いかにいんねんとはいひながら、さだまりごと、はいひなが
ら、きのふやけふにはおもひがけない道の爲に先に立てた、二
人の子供に實がのらすで。

又一つ元からさびてく、さびきつてどふもこふもならん。

子供二人そだてばそだつ、そだてにやそだ、ん、みなみな心の
理。

△明治三十二年十月二十二日西田龜藏身上御願

さあく尋る事情く、尋ねる事情は一つなるまい、一時なる
まいどふゆふ事であるふ、おもふ處くいかなるものもく
くとふく處やない、じきく事情むつかしい、一寸してお
く、みの處とゆふかはりたさしづとおもふか、かはりたさしづ
やない、くどふくだんくそれくどふゆふ事情、一時なる
とおもふなよく、いま一時どふなるこふなるおもう、なか
くむつかしいくなかや、むつかしい中や、一つのりがあら
はれきたならなるふまい、かはりたら一時の咄し道理刻限事情
にもさとしたる、なるならん事情やない、せまりくだんく
さしづおよんである、道うつかりおもてはならん、よふき、わ
け、一時よほど事情なんたるとゆふ處まではこばにやならん、

むつかしいく、なんどくすみきつてくくなるほど、ゆふ、日々さとしたる、おもいちがいとりちがい、皆々のりが一つくよほどとりきまれく、わかいくのこりてはなるまいこれ早くく。

△暫らくして

内々の事情もみなくよふきけ、今とゆふたらいまそらとゆふたらそら、くどうくいている、一時いふたんやなきあつてからゆふのやない、是迄さとしたる、取違ひあつてはならん、順序さとしたる、萬事早くく世界事情いそぐく。

△明治三十二年十月二十七日松村おさく身上御願

さあく尋る事情くく、どふも身上に事情が心得んとおもふ、どふゆふ事こふゆふ事おもふ、心たゞ一つ身上せつなみよ

ふき、わけにやわかりがたない、よふき、わけく、道の中理の中一つ咄しき、それよりだんく道、道とゆふはたゞ一時になりた道やない、長らへての道、道とゆふはよふしやんしてくれ、道の中日々つとめているなれど、身上不足なければ心つとまる、身上あれば心つとめとふても身上がつとまらん、身上がつとまらにや心もつとまらん、事情は道の中にこもりてある、親とたあて子とゆふく、このりよりうちく萬事き、わけ、一つには内々順序あはす道、心ありてりがある、りがありて心この心はやく、今順序道から道はこんでりとゆふ、ほんになるほど、ゆふ、道ありて心こ、ろありて道、一つつとめるも身上ふそくありてつとまるふまいく。

△明治三十二年十月二十八日増野正兵衛氏日本橋分
教會へ出張に付御願

さあ〜尋る事情〜、ぜん〜事情一つ一時萬事の處、あれもこれもそも〜ならん事情、あら〜こふうちらもこふおさまる理、みな〜の中へさとせ、中にこふゆふ事もあつたとみな〜のりにもさとせ、ならん〜の理から又一つ一つ分り二つ分り、なにかの事も分ればよふ〜のり、どんな事でもこんな事でもさしづにはたがはんで、みなおさまる道に理がありやこそおさまる、どんな事でもよい事がよいにたゞず、わるい事がわるいにたゞず、一時今日のりはこれで筆をおさめる、尋る處あちらもおさめこちらもおさめ、又さとさにやならんりもある、心にかけてはこんでくれるがよい〜。

△明治三十二年十月三十一日永尾芳枝様八木部内飯

倉布教所へ事情運び方有之候に付出張の事御願

さあ〜尋る事情〜、尋る事情とゆふ一つりとゆふ、さあ〜ぜん〜事情〜、あれこれ〜だん〜それ〜つたへたる處〜、あちらにも一つこららにも一つ順序道とゆふりとゆふ、はこび一つ事情、順序治まる、ある處一つ道とゆふ、一つ治め方この事順序治め方よぎなく事情、心りおもつてあと、ゆふはりでなくばならん、さあ〜治めてこへ〜、どんな事もしゆごふする、ついてあるくも同じ事、さあゆるそ〜心道とゆふこのり、いみはふくんである、ふかくりであるさあゆるそ〜。

△明治三十二年十一月二日（舊九月二十八日夜四時）

刻限の御咄し

さあ〜一寸一つはなし、さあ〜どふゆふ事しらす、どんな事をきかすやら分らん、さああちらでも手がなる、こちらでも手がなる、手がなつてからなんじやなあとゆふてはなるふまい、さあ刻限しらす事はちがはんで、あちらで聲がするこちらでこゑがする、なんでやるふゆくさき〜ぜん〜よりしらしたる事みへてない、道をしらす事たびかさなると分る、一時筆とつたらあら〜の事もさとするやろ、はじめもしらす身のなをるまで、これさあ刻限〜刻限のはなしりによりてふかくみにやならんきかにやならん、いかなる事もつみで〜つみきつてある、ほかからみたらむさくろしいてならん、さあはきそふ

ぢふきそふじ、そふじにか、ればほふけもいる、どんな道具もいる、ふきそふじでも道具がいる、いらん道具はいらん、どんなはたらきするこはいとおもはにやならん、うれしいとおもはにやならん、いさまにやならん、じつ〜どんな道がくるともはかられん、なんでもさとさにやならん、うつとうしいてならん、あきらかなる、めん〜心からどふもならん、いかなる事も聞分け、かさなりたら間違ひの理がかさなればどんな事もこんな事もある、一人のこしてある、みなものみな手をうたねばならん〜とゆふりを一寸さとしおこふ。

△明治三十二年十一月三日昨日朝四時頃の刻限より

昨夜談示の上取違ひありましてはなりませんから

押して御願

さあ〜だん〜尋る處〜、刻限順序の理を尋ねる刻限とゆふもの何時でも咄しするものやない、刻限はつまりつまつてどふもならんから、それ〜きまつた理をしらす、なんの事でもちがうとゆふ事は一つもない、なれど是迄とゆふものは刻限の理をきながらどふもならん、何をきいていたのやら分らんよふなもの、どふでも刻限まちがはん、刻限はつもりつもらにや咄しできん、とき〜咄しさとした處が分らん、そこでなんぼゆふたて分らん、分らん刻限はつまりつまつた上のこくげんである、よき事はなんぼをくれてもよいが、なれどならんかなはんこゑもなく、たえるにたえられん事さあしてみよ、たれの事とゆはん、もんかたなき處からのどふりをみればうそはあるふまい、まちがひはあるふまい、ゆいにくい事もゆい、むつかし

い事もときはどきて一つあつかう、世上からながめてきくにもきかれん、みるにもみられん、心にあれどくちにはだせぬが理、よくき、わけ、またあつまりて刻限どふりから一つ道あればうたがふ事できよふまい、よふき、わけ、おなじおほくの中に一つおほく中がある、どふゆふ事におもふか、一ついりこんでいる、みな〜日々咄しつたへてはたらいっている中の中であろふ、一つさとしの中どふりがある、元とゆふ中に一つきいてなるほどは理であるふ、どふゆふ事とゆふ、あんな事かとこれでみちとして理にあたるか理にあたらんか、日々はたらいいてる〜、よふき、わけ、人の事と思ふなよ、己が事になつてからどふもならん、これき、わけ、なんぼどふゆふ事ゆふたてゆふのがわるいなあ、ゆふてはいかなあ、つ、しんでいてはし

んじつしんの事とはゆはん、我身すて、もかまはん、身をすて、もとゆふ精神もつてはたらくなら神がはたらくとゆふ理をせいしん一つの理にさづけよふ。

△暫らくして

さあもふ一言々々をしておこふ、さあ〜もふこれどふでもこふでもそふじとゆふ刻限だした限りにはしとげにやならん、そふじしとげるごもくだらけ、ごむそうてならん、すみからすみまでそうじにかゝる、そふじにかゝりたらあちらこちらこへがきく〜、どんな事をきいてもこゝろをさづけた限りに一名一人の心とゆふ、をめもおそれもないかい、心はうけとる事でけんとさとしおこふ。

△明治三十二年十一月十日八木支教會部内飯倉布教

所擔任者村田辰造の處後任渡邊平兵衛に致度御願

さあ尋る事情〜、ぜん〜事情一つ、一時一つ尋る事情、尋るからは一つ事情こふとゆふ、みな〜それ〜おさまりたり、一つ尋る處みな〜しんじつ一つりにゆるしおこふ〜。

△同日八木部内山邊出張所擔任村田榮次郎之處村田

辰造に致度御願

さあ〜尋る事情、ぜん〜事情一つ一時事情もつて尋る處、みな〜それ〜あつまる、こゝろりにゆるしおこふ〜。

△同日村田辰造教會へ引越の御願

さあ〜尋る事情〜、それ〜一つこれまでおさまり、一つしよふらいのりにゆるしおこふ〜。

△明治三十二年十一月十五日松村さく身上すみやか

ならんゆへ松村吉太郎氏よりおして御願

さあ〜尋る事情〜、一つには尋ねにやわかるまい、ぜん
 々尋る言葉によいわるいとゆふ、親とゆふ子とゆふ、親子一
 つのりよふき、わけくれにやならん、同じ道があるよふ事情き
 々、とつてくれ、どふゆふ事で元とゆふ、みなこくびかたむけひ
 ぎに手をおいてしやんしてみよ、親とゆふいたみなやみありて
 一つき、道ありて道、道のふて親とゆはん、道あつて親、親
 あつて子とゆふ、世界中教會、世界ならん理は思はずにまんぞ
 くさせばまんぞくからどこからでも理がかいる、これ一つさと
 つてくれ、身にかゝるとくるしみてつとめると、うれしゆふつ
 とめると、親をたすけ道をたすけ、めん〜ゆふ迄もなく、か

とうつうはつていてはどふもならん、ばんじはじめほどのふお
 さまる、日々おさまる、これよふき、とつてくれ〜。

△押して分教會の事で有りますか

さあおもてくれ、たがい〜それ〜だんじよふ、これもたの
 しむ、くるしむ道をはじめんで、これよふき、とつてくれ。

△押して分教會の事でかゝりますか本部のよふであ

りますかと御願

さあ〜教會どふやこふや、あれがそれ〜長い間の道にあき
 らかなれば、むこふもあきらかたのしめば子のくるしみなき、
 あざやかなるものであるほどに。

△押して大縣の治め方でありますか御願

さあ〜心にある、萬事治め〜とおもう道で萬事心にあざや

か、めんくあざやかおさめてならん、親とゆふたゞ一人、親をたすける心があるがり、理をおもうそれそれとりつぐ處も、萬事それく元々のり、くびをかたむけしやんして治め方のりによつてさかへるりによつてつづれるよくき、わけく。

△明治三十二年十一月十五日飯降政甚氏當分新家へ

家移りの御願

さあくだんくの事情を尋ねでる、一つくりをとつてよふくあらくふしんとゆふ、ぜんく順序のり、いくへにもさとしたる、むね三軒とゆふ、一時あかるいりの處、今一時の處どちらこち心とゆふでもなく、日々の處たゞわづかうちく順序いさ、かなる處、心とゆふりがある、兄弟三人の中のり、あちらからこちらからどふもむさくろしいてどふもならなんだ、

一つとんだ事情ありておさまらにやなるふまい、どふゆふ事、長い間長い道の理、だんくかさね、一つかさね二つかさね、もふ一つかさねにやなるふまい、これからとゆへばこれから一つのだい、これからとゆふ、それくみなくのりにある、おさまるもおさまらんもみなものり、ゑぐいはなしとおもふたらいかん、やしきたゞ一つ、今日までつたへにくかつた、尋る事情は早く順序運んでまんぞくさ、にやならん、順序はこぶにもよい事わるい事みなくの中にある、分りよい理も心とゆふりより分かりにくなる、こわい處にておつる處をよふくくいとまり、しよふらいもふ一度ない、これから順序き、わけてくれ、もふ何時間やく、よふくつれてもどり、一日や二日やとゆふまでやない、まんぞくあたへば一日の日、これからたて

よふと、こかそふと人々みな心にある、どれもよいこれもよいはなんにもゆふ事はない、一つくまちがうからみにやならん、これ一つよふき、わけてくれにやならん。

△押しして政甚、政枝と一所に暮しの事御願

わからん事は尋ねにや分らん、今とゆふ今おもてとゆふりがある、せかい男一つ名前とゆふりがある、こしゆふとゆふりがある、中にたゞ一つそふでない、あちらこちら一つやで、あちらこちらの心ありては治め方とりにくい、あらあちやこらこつちやとゆふ心ありてはどふもならん、中にありても外にありてもくれくとみなわかるで。

△来る二十一日家移りの御願

さあく二十一日、もふ日はなく、なにかの處とかくまんぞく

をあたへてやつてくれるよふ。

△又押しして政甚来る舊十月二十五日より大工修業解

く事御願

さあく尋る事情くあの事情とゆふものは、元とゆふりからでたもの、一日なりとぎよといふりからでたもの、ときほどきのりはまかせおおくはかるふてくれ。

△おして日限は二十五日より

日のはじめとして萬事の處まかせおおく。

△明治三十二年十一月十七日上田槽太郎十七才身上

の御願

さあく身上一つ尋る、身上事情尋る身上よりさきに一つ事情さとさにやならん、どふゆふ事身上からりを尋ねる、身上はあ

とへ一つ、身上はこれから一つになる、まあ内々事情、長らへて事情よい處の事情いさゝかもない、どうでも日々事情どふゆふ事で日々事情であるふ、としぐおもいぐどふも心おさまるまい、たよりぐ又はづれぐ、はづれるとおもふ、かならずはづれるとおもふな、古き理に因縁とゆふ理さとしてある、神の道なるよふにはあちやならん、みちすぢの道をきいて、内々ほんになあ第一しあん、あちらこちら定まつてわるいとゆふ、わるいだけすつきりとふりしまう、若き身上にか、つてぬしも心得んとおもふやろ、どふゆふたよりもなぜはづれてはないで、心にしいかりどんななんぎもいばらぐるふも、ふじゆも通りぬけてたのしみとおもへ、これさへ心に治まつたらこれしいかりきゝわけ。

△明治三十二年十一月二十二日増野いと身上御願

さあぐ尋る事情ぐ、さあぐなんとなくして身上一つ、又一ついかな事情、どふでも身上ならん、どふでもむつかしい、あんど二日三日どふなるふとおもふ處、ぜんぐ事情ありてさしづもろてとゆふ、又あんどてはならんとゆふはよふかぞへてみよ、よほどなりたか、一時尋るいたみなやみ何もあんどる事いらん、事情きゝわけてくれ、萬事かゝりてある、どふした中こふした中、よふしあんにやならん、萬事治め方どんな治め方もどふでもこふでもりより治め方はない、りよりないりをはづしてはならん、萬事さとすよふきゝわけ、きゝちがいとりちがいありてはならん、何もその時のばをつくるよふなものの人間のまちがいさしづまちがいないなれど、人間心よりまち

がう、きいて萬事かゝる處りよりたゝん、理をはずすからどふもならん、人間ぎりをおもふからどふもならん、そら人間のぎりもなけにやならん、そらその時の人々のり、神の道には理よりたつものはない、理からはこべは萬事きれいにして一つに治まる、あちらみてはぎりおもひ、こちらみてはぎりおもひそれではならん、さしづとつてさしづき、わけ、さしづとりぞこのうてはならん、あちらながめぎりおもひ、身にかゝりてはならん、何にもたよりない、ならん時なにをたよりか、第一助一條はじめたる、人をこまらしてはたすけのりがはづれ、よくき、わけ、神のさしづ理まもるは道、この道よりない、人のぎりやない、神のりはこんでいる、このはなし深きはなしやで、たれにどふかれにどふとゆふりはない、さあ、尋る身上あん

じる事いらん。

△明治三十二年十一月二十三日ベスト病豫防の爲本

部舊十月大祭延期する事警察署より注告に付御願

さあ、尋るところ、どふもこれも世界中とゆふ、みなどふりせめられてをる、どふりにかまされてをる、今日の日とゆふは人々あらためてゑんきや、とゆふ、あいはけつこふや、どんな事してもはい、とゆふはけつこふや、どふでもとふれん日がある、大祭々々のばすがよかるふ、これはなるほどのりのばすとゆふてのばされんが理なれど、どふなりこふなりふしよ、世上一寸ほんのか、どこからどんな流れ水で、くるとも分らん、そこでぜん、刻限にさとしたるとゆふ、そふじにか、りたら道具がいる、なにか一寸はじ

まりのよふなもの、今の處そんならそふやとかるくおさめてやれ、よりにくるものもどふとゆふ、ほんにそふやなあと心うつりたらおい、わかる、しんはいはいらん、なれどみなこたへとゆふ、ふみとめる理なくばならむ、ふみとめるとゆふはみなのせいしんとゆふ、一じそんならそふと世界理もあるふ、皆こふとゆふはまかせおくによりて、延びよふがちづめよふがかまわん、心にりあればよくしんじつの心うけとる、しんじつとめた處があちらむきこちらむき、そもくではどふもならん、まあ、こふとゆふやこふとしておくがよかるふ。

△押して電報にて部下へ通知する事御願

さあ、まあ、のばすとゆふてのばせば道理にかなう、一寸なんでもやるとゆふ處もあるふ、あと、あざやか分る、ならん

とゆふてきたならならんとゆふはり、たのみことばならたのみことばにきいてやるがよい。

△明治三十二年十一月二十七日榊井伊三郎小兒幸四

郎一時ひきつけ病に付御願

さあ、尋る事情、どふも心得ん、事情尋ねる小人事情親や、一つどふゆふ事であるふおもふ、一つどふゆふ事なる、よふき、わけ、そふやのふても皆そもく、心どふゆふ事と思ふ、中に一名内に一つまだその上心にやまんならん、一つさすとす、小人は何も分らん、又親とゆふよふき、わけ、何か事情もかゝる、どふでもこふでもかゝる、だい又もそれ、心やんで中に一つ事情どふも分るまい、一時あぶないよふなもの、たてあう、あぶない事たてあふてはならん、一つじつをさ

とすよくき、わけ、もふそふやのふてもあちらこちらやんでい
る、その中やむ心にとつてはたへられん、これより萬事こもり
ある、たてやいよふいならん、萬事ほんに我身にか、ればつら
いもの、ゆふにゆはれん、それよりさき心やまん様わづらはさ
んよふ、しつかりとりしまり、一時心定まらにやならん、一時
あぶないこれから心をさまれば何も一時あぶないよふなもの
や、これをよふき、わけてくれ。

△押して内々の事一つの事が押して願

さあ〜何よの事もそふと年とれたらばんじの事ばんじの事、
これ一つさとしおいたらばんじ分る。

△明治三十二年十二月一日松村のぶ目の障りに付御願

さあ〜尋る事情〜、さあ内々事情にあちら事情、こちら事

情事情かゝる處一時の處、ぜん〜一つさしづしておいたるり
ある、よふき、わけ〜、き、わけは第一であるで、道にいて
ふそくだらけではならん、たゞ事情萬事一つの理が萬事のりに
なる、よくき、わけ、どふなるもよふ〜き、わけ、萬事心と
ゆふものまたがるからどふもならん、さばけばさばける、世上
までまんぞくき、わけ、ほんによふ〜ほんにとそこ〜みな
たんのふ治まる、治まれば同じ事と心よせ、どこにあるも同じ
事かしこにある、同じ事この事それ〜治め、又おや〜又か
はる〜はやい事情さとす、心にかゝりないよふそこでどふゆ
ふものこふゆふも道とゆふ處からしやんしてくるしむ事いら
ん、なやむ事いらん、よふき、わけて、うつくしい理をはやく
うつして、この順序ほんになるほどなあ、あきらか道、早く道

いそいでかゝりてくれるがよい。

△明治三十二年十二月五日福田藤太郎御願

さあ〜尋る事情〜、身上一つ事情、どふも長らへて心へん、いかなり尋る、事情りはさとする、いかなる道とゆふりとゆふ心にある、一つ事情所みな〜はこぶ事情、事情とふく處、事情心はこぶ、事情はみなうけとりてあるほどに、身上事情いかな事情ある、いかな事情もき、とれよ、心におさめ、此道とゆふ理とゆふ處りをはじめたり、かるきものでない、まこと一つが台とゆふ、それより理があつまりて道とゆふ、人間一代とおもふたらかるいもの、つくすりは末代のり、一つ心どんとおさめてかゝらにやならん、はじめたりはだいとゆふ、事情大きもの、國に道があるいかなりでも身上ふそくなるとおもふ

な、順序さとするりをしらす〜、聞いて末代のり、國に順序のりさとしてくれ、なんぎさそふじゆふさそふ親はない、たすけにやならん、たすからにやならん、たすけやいのりき、わけばおい〜事情このりを聞分けて、長らへて一夜世上のなん、一つ身の内すみやか、一夜の間にかげすがたもなくなるものもど、あるであらふ、おなじ人間神の子供いんねん身の内不自由のなか、末代のりこれ聞取てたのしみ一つのりをわたしおこふ。

△明治三十二年十二月六日榊井政治郎小兒なをる二

人共身上御願

さあ〜尋る事情〜、さあ〜まあ一つ〜身上にかれこれ、又小人いかな事情と思ふ〜、身上のさはりとゆふは

一つ／＼わかりてある、内々中とゆふまあらく／＼りあつて心にくやむ事情、小人事情これをよくきゝわけて、なにもゆふやない、おもふやない、年限の内とゆふ／＼、いかな年限もこさにやりはない、このりおや／＼事情たに事情あるまい、さとする事情ほか／＼あるまい、又あにとゆふ萬事治め方せにやならんはこばにやならん、内々心にかゝる事あつては心にうれしいはたらき出來ん、この事情よく聞分け、あざやか萬事情どんな事情わかりある／＼、あゝとおもては萬事はかりがたない、道とゆふどふでもこふでも人間心はかる事でけん、いかなりきゝわけ、これまでなんどさしづ／＼はちがはん／＼、一つりさとするりが、りのふて道が道のうてはかりかたない、道に治まつている、すればどんな事しつてゐる／＼、中くらくとふろといか

ん、道にあつてはこぶも道、おさめるも道よふきゝわけ、どこへどふゆふりかゝるやらあたるやら分らん、すぎたる事あつてはならん、一名一人にかゝる／＼、一名一人にかゝればけつこふとおもへ、これしいかりおもい、あざやかせにやならん、さあとびついでとびだして道から道そのばはつらいよふなものなれど、道からは何もゆふ事ない、ゑんりよきがねはいらん、世上から道、道は神の道とさとしおこふ。

△中河分教會の方へ行く事はちがいますかと押て願

さあ／＼みな治め方とゆふ、治め方一つ二つやない、どふでもこふでもおよんでくる／＼、およんできた處がどこへとりつく處もないよふな事ではならん、そこでたんせへせにやならん、そこでぜん／＼尋る、尋るからはさしづする、一つやない二つ

やない、かゝる古きくあらためてばんじ治まる、おさまれば
世界治まるく、世界治まればどふゆふりになるか、又地場
くとゆふ、地場からはつしたものの十分だしもの、はんじきれ
いなりくよふどふりかなはん、これくはしいさとし、人間に
一つくりあたへるのや、よくき、わけにやならんで。

△押して中河分教會へ政次郎行くのがわるう御座い

ますか

さあくいくたび尋ねかやすく、道のどふり道あれば尋ねか
やす、内々小人又事情く、又めんく事情いかな事ぜんく
事情もこれ世上、又一つこんなの中に身上いかな心内々中に
心にましてやまんならん、事情尋るか、りてくればのがれられ
ん、みな世界りあればめんくにかゝるほどつらい事はない、

どふもならんからさしづ、さしづすればどふゆふりも分る、よ
ふき、わけ、どんな事年限く間の事情はわかりてある、又知
つているやろふ、聞分けばどふり、どふりにあてるまでのりの
事あざやか事情、萬事一度の事情やない、二度事情やない、あ
ざやか事情くるしむとふりにくい道くるしまにやならん、なれ
どいつまでくるしみではならん、そこでどふでもこふでもか、
るく、とびついて道は道である、萬事の事にさとす、内々で
こしてある、そらいかんとはゆはん、そら心にさとしてやらに
やならん。

△又おして年のとれたものからとゆふ處願

さあく尋る處く、内々にはどふよこふよ日々たち月日た
ち、年限一つしゆぎよ、何も一つくつらい日をつらいとおも

はんよふ、つらい日はたのしみ、つらい日つらいとおもふから
 まちがふき、わけ、一日とゆふつらい中、つらいより一つ
 こふのふあるまい、しんどの中に實がある、らくの中に實がな
 い、この一つのりさとしおこふ。

△明治三十二年十二月七日清水與之助身上に付先日

御指圖より思案致しまして分教會の方、副會長富

田氏にゆづりまして本部へ詰切に定めます方がよ

ろしきよふに思ひ升が、此事取違ひ致しましては

なりませんから心得迄に御願

さあ、尋る事情、なにか順序のりとゆふものは、何か心
 とゆふりある、心とゆふ身上せまるとゆふ、このやむりとゆふ
 はいかなりとおもふなよ、さあどふもならんでも一寸はどふし

ておこふま、なれど、どふでもこふでも身上から身上、日々い
 さむたのしむ日ばかりなら何もゆふ事ないなれど、よふき、わ
 け、めん、こふとおもひとき、せまる、すれば心に順序治
 め、あきらかなこれ何も心にか、らんあ、たのしみ治めて
 みるがよい、道とゆふりとゆふ、年限は何年たつもとれやせん
 けやせん、このふかきりさとす、心にらくをとつておさめるが
 よい。

△押て分教會長名義譲ります事

さあ、押て尋る處、身上がたのしみ、らく、たのしみ、な
 なが思ても心でもつか氣でもつか身でもつか、もふ一日も一日
 もらく、たのしみ、道はよほどながい年限、そこでめん、
 とま、せまり、たのしみなあせまるそのりから聞分け、元り

とゆふ年限いく年たあつて理はけやせん、とれやせんそこで身をらくらく心らくく。

△押て分教會役員又支教會長一同へ運び方梅谷、増

野兩氏出張御願

さあく／＼尋る處どこにりある、かしこに理ある、どこにあつてもそのりけへるものやない、ふかきりき、わけ、心にあれば神がむすびこんだることばのりは何程のふかきりとも分らんで、これさとしおこふ。

△押て運び方増野氏出張の事

さあく／＼尋ねかやして一つりを尋ねる、さあく／＼めん／＼の事はめん／＼こふとでけがたない、そこで萬事咄しあい、あざやかなんでもあざやかは神の道、やれやつた楽しみやれもろた

のしみ、この一つりさとしおこふ。

△明治三十二年十二月九日宮森與之助氏身上より妻

ひさ目の障りに付御願

さあく／＼尋る事情／＼、どふも身上に心ゑんとゆふ、又身上に心ゑんから尋ねる、身上心ゑん事情尋るならばさしづ一つ、どふりからさとすよふき、わけ、身上事情又一時かはる、又第一事情あんじる／＼、あんじる事いらん、これ迄ばんじどふもかゝりたりのがれられん、日々事情こんな事になるか／＼、ゆはずかたらず心になんである、なんである日々くやむりたつてもてある、そのりき、わけ、そらなるほどになるか、こんな事になるか、くやむ心日々たのしみうしのふてじゆふ／＼事もつておさまるあざやか、まだかなあ／＼道のためならいかにくる

ふく、身上あんじる事いらん、このりとりなをし、一寸いかな事情いかなんものがれるで、身上あんじる事いらんく。

△明治三十二年十二月十四日山澤爲藏小人まち七八

日以前より少々風邪の様に有之、又爲次三四日以

前より同様にて今朝三時頃に餘程悪しく相成候に

付御願

さあく尋る事情く、小人く身上どふゆふ事であるふ、思ふ處なにがちがふやろふ、かぢちがふやろふとゆふはゆふまでにあるふ、ぜんく事情たいそふなる事情く、ながらく一つ事情、よふくあざやか、又小人どふゆふ事であるふ、小人の處あんじる事いらん、あんじる事いらんが、まいよくいつの度もさしづ、それくにしらしてある、みな中の中治まり、中

めんくゑんりよしてはならん、人をもつてゑんりよしてはならん、たがいじぎあいはそらなけにやならん、道をはじめたりに人のゑんりよきがね、人をおそれてはつくしている運んでいるりにそはん、よふき、わけ、だいなる古い事情でもそれそれきただけやない、みにしりているやろ、こらどふこらゆゑん、一つおもひくではならん、道の上からたつたるゆふてはたれにさしつかへる、かれにさしつかへるとゆふよふではならん、一度はよい二度はよいなれど、その日で、からどふもならん、そこでまいよくちよいくに理はさとしたる、よふき、わけ、道のためならこそそれぞれはこんで、みなよりよふてきよだい一つのりになつたる、これをおもひゆいたいけれどゆゑんく、度々かさなるとよぎなさはつさんさ、んならんよふ

な事あつてはならん、さしづはそのば一寸ほつておけばずあぶ
 んほつておけるものなれど、日々さしづまりたらどふもなら
 ん、身上事上一日の日に尋ねたらこふゆふ事ある、こふゆふ事
 あつたそらほつておけんくと談じもせにやならん、つくしや
 いのしんじつとゆふ、まああれだけの事ゆゑん、これだけの事
 ゆゑんと、心腹中にほつておいてはならん、日々理からよつた
 る、理がつもりくたらとりかやしでけん日ある、みなそふぞ
 ふ中に内にやくくある、あきらかにするは神の道、神のさし
 づである小人たる處一寸あんじる、あんじてはならん、どふゆ
 ふ事あるふがこふゆふ事あるふが萬事の中にこもりある、よふ
 き、わけ、人の事やさかいにゆゑんく、それでは一寸道かけ
 る、人の理やんで神の理かく、これたびかさなりてからどふも

ならん、よふき、わけてくれ。

△明治三十二年十二月十四日梅谷部内深山民野氏に付

縁談の情心得迄に御願役員駒谷の子駒次郎十六才

さあく尋る事情く、ぜんくの事情にはおもい中どふもさ
 んらんく、さんらんの中とふりたる、一時心もつて治め、の
 ちくはこうや、一つくのがれたらとゆふ、またぞふるおこつ
 た理から治まりく、治まりから一寸のこしたるり、きればき
 るつなげばつなぐとゆふ、心一だんこふとあらためるは一つせ
 いしんである、この心もつてはこびかたするがよいく。

△明治三十二年十二月十九日河原町分教會副會長深

谷徳次郎三十才身上障りに付御願

さあく尋ねる事情く、内々に事情一つ、いかな事と思ふ、

身上どふゆふ事であるふか、一つ／＼順序思へばよふいならん道であるふ、身上どふも思ふやない、道はどこ迄も道の上から心に萬事心にかゝる處、ぜん／＼これをだいとして心を治めてくれにやならん、ぜん／＼さしづからおさめよ、わかるほどにさあ一日もはよふ／＼。

△押して會長深谷源次郎三島の方へ出るよふの運び

方の處申上御願

さあ／＼尋る處尋ねかやさにや分らせん、ぜん／＼さとしたる、我の事人がする、人の事我がする、これどふりやるふ、これき、わけて、はやく／＼順序はこべ、事情わかき事情どふゆふ事、萬事たつた二つに事情さとしたるによつてこれを聞分け。

△押して深谷源二郎妻はな身上御願五十六才

さあ／＼尋る事情／＼、一つさあ心ゑん事情、いかな事であるふ、尋る事情さあ／＼身上か、れば尋る、たづねばさしづ事情さしづ、事情はどふゆふ事も指圖まあ一時のところぜん／＼もつて事情はなんでも、これからといふ處さとしたる處ある、道ながらへて事情、順序として一つ咄しかけたる事情ある、それから内々き、わけにやならん、身上ふそくあつてめづらしいさしづであつたと思ふだけではならん、こちらへとゆふ、七分三分のりさとしたる、いつからとゆふてない、なれど順序さとしたる、めん／＼事情はたにんからもつてはこぶ、すれば萬事めん／＼人の事が我する、わが事人がする、この理聞分けばあざやか治まれば身上そのま、あんじる事いらん、これよふき、わ

けにやならん。

△押して河原町分會長を副會長徳次郎氏に譲る事に付

委細御願

さあ〜尋る事情〜、いかな事情も尋ねにやならまい、をし
て尋ねばさとしおこふ、よくきゝわけ、身のぢゆんじよふ〜
だん〜尋る〜、たづねばさとする、理が心に治まればぢゆ
ふよふ、これまちがいあるふまい、尋ねばなんぼふでもあるも
のや、さあ〜たつしやとゆふ、みな世界あかるい、あかるい
間にまんどくあたへるは天のりさとしおこふ。

△押して會長夫婦三島事務所へ引越の御願

さあ〜尋る事情〜、どふりから一つ心に治め、どふりから
治めたら、もふ一日もはやくこれ一つさとしおこふ。

△明治三十二年十二月二十三日諸井政一氏身上御願

さあ〜尋る事情〜、事情はぜん〜まい〜一つ〜事情
さとしおいたる、もふこれでよい、これでよいと思定めこした
る、又ぞふる身上せまる、事情さとしおく、もふどふでも身上
にかゝりてどふやろふ、これ一つどふでも身上にせまる、せま
りてくれば又ぞふるどふと尋ねる、よふきゝわけ、もふ年限い
く年とふりたるかしやんしてみよ、いかなり時々り、元々聞た
咄しからついで道定越て身上にかゝればどふと思ふ〜、よふ
聞分け、よもやとふくから心あつて元にはのかさいた處から年
限定めて、よもや〜今一時の道やない、古い事情からそれか
ら世上にりある、そのりは分る、此理だいとして又内なんど事
情まあどふやろふ一つくやむり聞分け、なるもいんねんならん

もいんねん聞分けて定め、みなく〜それ〜心おさめてくれ、よふき、わけ、まああんじてはいかん、心しいかりくんでくれ、又處々うちまはりある、いこと思たて身上にかゝりてくればどふもならん、是迄たいていやない、いつまで心にくやむりかゝりてはならん、どふでもそれぞれ心よりおさまるとゆふりを治めてみよ。

△押て會長譲りの事願

さあ〜もふすみやかとゆふ、心いつ〜心にかゝりてはならん〜、もふとき〜といへばもふそれはよかる、にんにんもちからもでてきてある、そこでもふであるか〜、日々くんでこゝろあざやか、一つまかせるはこれは一つあんしんの道であろふ。

△山名分教會長諸井國三郎氏の名義を副會長諸井清

磨呂に切替の御願

さあ〜とき〜のり、とき〜のりかゝりてくれればしかたない、何時となくよるがよなかでもかゝりてしよふらくらしてはならん、このさとしはよふいならんさとしであるほどに、そこで存命に譲ればしんのたのしみ、くれてしもてからはたゞあたりまいのどふりのよふなもの、これさとしおこふ。

△明治三十二年十二月二十五日山名分教會長譲り方

に付、運び方又部下の擔任へ治め方に付本部員梅

谷、喜多兩人出張の御願

さあ〜尋る事情〜、さあ〜ながらへての事情なら又一つ心りを、それ〜満足、事情みんなそれ〜まんぞく一つりに

治めて、さあ何時なりとく順序さあゆるそくく。

△明治三十二年十二月二十七日榊井安松二十三才身

上御願

さあく尋る事情く、身上に事情は心得ん、事情尋るさあく何かの事もき、わけにやわからん、いくたびも同じ理さす、よふき、わけ、道の中道の上年限そふとき、わけ、萬事中に治めいるやろ、ならん中やないでく、身の處さとすき、わけ、にんいくたりあれば中とゆふ、たれそれにとゆふはながくりによつて中の中にもいくたりの中、中の中一つ治めいるやろ、萬事さとすりき、わけく、身にか、りてくればなるほどとゆふ事だけでは日々どんな事はつしるやら、どんな日くるとも分らん、理にせまりきつたる、内もせまれば世界もせまると

ゆふりはぜんくさとしたる、身上よいかとおもへば又尋ねる、ぜんくさとしたる、一人やない二人やない三人やない、年限そふとあつかう理萬事はたらく、すればゆるすとさとしたる、ぜんく刻限のりも治めたら治まる、治めなんたら治まらん、どふでもこふでもそれ道とゆふりありて理ある、道とゆふり順序おさまりがたない、よふき、わけ、めんくこふ、めんくりにくらべてとりはかるふてくれ、いそぐく身上一寸かゝり一寸きくきかする、ながらへて道つとたる、これしらべるが理、とびはいるとびこむとゆふりさとしたる、めんく心にきりかへてなりととゆふせいしんならどんなはたらきもする、身にか、らねばよいとゆふよふな事ではならん、上一つ事情き、わけ、あちらにもさとしこちらにもさとし、さしづくでて

ある、さしづもちいらすればどふもならん、このさしづき、わけ、さしづをたなへのせてあるとゆふよふな事ではどふもならんで、まだく／＼かなんりどこにあるかき、わけ、みなとりつぎく／＼だいとしてはじめかけたるりき、わけ、ほんにじきひつとゆふ、どんな處へもとびはいるとゆふ、どんな事も道の上とゆふ定めてくれく／＼、ならんものにたのまんく／＼、身の處あんなじる事いらん、どんな事もきいたらすぐく／＼とゆふ、せいしんとびはいるゆふ、はやく萬事の處さとす、き、のがしみのがしでは道の上とはだけがたない、そこであちらへ一寸こちらへ一寸さとす、どふもならん、まだたなのうへのせてある間はみていらるなれど、しりにひくとゆふよふでは何もおもての道が、何のきいての道か何をたのしんでの道ぞさあ心にはまらに

やたづねかやせ。

△押て高安の部内大縣の方増野山中氏が御運び下さ
れますが、又日々の處の理の上の事情でも有り升
か、又日々御授け御運び下されますのに教長様之
代としていますが此へんの事で有り升かと御願

さあく／＼尋ねかやせばさとす、同じ中なら同じり、どちらも一
つりなら又一ついかな事も世上とゆふ、なるほどとゆふは理な
れど、道はづしてりがあるまいく／＼、同じ理ならゆふもゆはん
もあるまい、よふき、わけ、道とゆふりありて道、道のりがの
ふて道とゆへよふまい、むつかしよりいんねん屋敷でありて、
時しゆんをみてあらはれでたる、この理聞分け、同じ五本の指
の兄弟の中ならどの指かんでも身にこたへるやろ、あちらおこ

してこちらたおそとゆふりあるふまい、同じ理かぶつてのくよふな、このりをおよそどふと一つだんじの上の一つ尋るがよい。

△明治三十二年十二月二十九日高安分教會長松村吉

太郎氏母おさくの身上より御指圖ありそれより運

方、高安部内大縣支教會分離の事御願

さあ〜尋る事情〜、さあ〜尋る事情さあ〜とき〜しゆん〜、さあ〜道々一つ事情、さあ〜なにかの處〜だん〜事情、これで〜やれ〜、何かみなうけとるで〜さあうけとる。

△大縣支教會を分教會に引直しの御願

さあ〜一寸ひとことさとしをく、さあ〜此道とゆふ一つ道

はみなよふいな道やない、道とゆふ道はめづらしい咄しから何をゆふやらとゆふよふな處からはじめた道、みな雨のふる日もあれば、又天氣もあるこれは道すがら、今一時尋ねた處、心おきのふゆるしおく〜、又事情是迄たがい〜道わすれんよふ〜、心やすよふ心やすよふ、事情はせけんながめ〜、ゆるすまもながめ〜る事情すみやかあざやか、あちらこちら順序あちらこちら順序ゆるしおこふ〜。

△明治三十二年十二月二十九日山田作治郎氏會長を

副會長に譲る事如何と心得まで御願

さあ〜尋る事情〜、さあ事情はだん〜事情である、いかなる事情である、さあ〜ぜん〜よりもさとしたる、事情ある、いかな事情もさとしたる、又一つ道の上こふのふとゆふ、

十分一つはなしにもらいうけたるりある、これをよふき、わけ、なつても一つならいでも一つ、順序さとしたる、年限順序からこふのふむすびこんだる、一時尋るりいつになりても身上すみやかならん、いかな事又たにいかな事であるとおもふ、又中にもしんの心こふしてこふと心にうかめば一つのみ、一時どふせへこふせへはさとせん、なれどこふのふとゆふりあたへてある、ほんにとじゆよふなら、何よから一つくのりもおもいだす、おもいだせばりにむすびこんだる、理は末代のりにむすびこんだる、又内々どふとかならずおもはず、この上一つふみとまりたる、だいにむすびこんだるりはかない一つのだい、どふおもうもこふおもうも同じ理である、さあさあよふき、わけ、東むいてもさとすも西むいてさとすも同じ事からさとす

も南からさとすも四方からさとすも同じ事、さしづおよんだる、みづからほんにそふやなあとおもへば、はこんでやるがよい、どふとも心にゆるすによつて。

△押して山田作次郎身上の處まだ外に運び方も有り

ますか御願

さあくだんく事情、尋る處ぜんく事情一ついかななやみ、いかなせつなみ、身上どふなりこふなりよいかとおもへば、又いたみなやみかはる、あちらもこちらも心りとゆふ、めんくそれはどふゆふ事なるふ、こふゆふ事なる、おもう一つ心が一つりとして今日のり、一つたづねる、これ一つ一寸さとしおくによつて、どふなるも一つこふなるも一つ、りは末代、だいありて道、いかなりもたのしみ、身上ふそくありてた

のしみでけやせんなれど、中ばでありたらどふなる、理をよくき、とつてくれるよふ。

△明治三十二年十二月三十一日(舊十一月)夜飯降

まさる七十日前より脊骨痛みに付相談の事情とも

申上げて御願

さあ〜尋る事情〜、尋る事情はみなそれ〜おもふ、めん〜それ〜おもふ〜、おもふ事情尋る、尋るから一つしつかりとき、とつて、むねに治めてとほらにやならんで、さあ長い間の事情、ふるい事情とさとするよふき、わけ、今一事情ふるい事情たづねにやない、ふるいだん〜事情から、わけぬことには一寸新しい事情わからせん、今一時尋る、事情ぜん〜ふるき事情から、新しい事情とせいでわからぬ、よくき

〜とれ〜、事情はよほどふるい年限である、ふるい年限からさとすによつて、道理上めづらしういならん道をせかい事情はじまり、よういならん事情もつて、一代くれて一つ事情よういたいていでない程に、子供〜あつたであらう、順序一つ道にならべる程に、ふるき一つの事情、存命の間くどき〜、存命の間に子供あつた、子供といふどうしたかうした、一時道理、只一名一人だけ道理、そのものよぎなく理でつれかへりた、中にあれば下もある、中とも下とも子供事情みわけてやれ、この理き、わけ、いろ〜代がかはれど世界わかるまい、ほんにといふ理、世界親りといふ理があらはれて、又一つようき、わけ、今ふしふるい順序一つどうなりかうなり、なに不由よういたいてなつてかうしてかうなればおもふて見ればさ

びしいものやと思ふ、今年はよぎなく日も通り、しらずく一つの理もあらはれる、順序一つ心治めて聞いてみよ、教祖子供はんばんくれたものとしよつたもの、一人のこつたひとおもへ、やうくの日みてくれたもの、一つく又はなししつかり尋る、理に不自由なし、どもにもかうにもそこに將來治りつかん、つかんじやない、ゑんりよいらんで、順序いづりおいたる、一つの理ふせこみ、心さくそなく、いんねんの理から、ふるき先祖はかういふ道理でくれたもの、これきいてたのしむ、これではくおもふやうではならん、よくき、わけ、そんならどうせかうせいはん、此道といふものは、おもふやうになつてくるものやない、おもはん事になつてくる、子供もろふて行かう、どうして行かうかうして行かう、年げんの間むつかし

いようき、わけ、不自由なしにどんな道でも通ればしらずく通れん、十分思ふ不自由がちでこの話わからうまい、どうせかうせわからん、わからんじやない、一代ふるき事情しつかり、ほんにこれからこのたのしみ、不自由一つもない、さあこの順序治めくれにやならん、身に不自由思ふ事もいふ事も十分思ふたて、身に不自由なにもなりやせんぞ。

△互にはなしの中におはなし

さあくわかりにくいであるく、よい事ならん一つ十分おもた事ならんが一つ、十分と思ふ事ならん事情がいんねん、これまで思ふやうにならん、なる理ならんやう、とほりこんにやどうやなあ、めんくも心思ひさしてゐてさ、あにやならん。さあくもう一聲く、何もむつかしい事はない、兄弟三人、

いつくどうならさしづ、いつくまで思ふたらちがふで
 く、たゞ一つ兄弟理と三人といふ理と、親子ふせこんだ理は
 ちいさいものと思ふなよ、一人くれた、二人わかめをつれもど
 り、いんねんふかしてなる、一人づれもどり中よくが一つの
 理、これに日々にくもりあつて一つの理、中よくくくらすに
 やならん、ならん事くらふたねをこしらへるもの、三てんいつ
 にたつたてくさりやせん、この理いつくまでもわすれんや
 う。

御さしづ (明治三十二年) 終

昭和二年九月一日印刷
 昭和二年九月五日發行

非賣品

奈良縣山邊郡丹波市町字布留百十二番地

編輯兼 天理教同志會
 發行者 代表者 田邊要藏

不許
 複製

大坂市南區中之町三十九番地

印刷所 合資中村盛文堂

代表者 岡本省三

313
1014

終

